

学生研究集会開催報告書

代表者：鈴木 理仁（グローバル共生教育論コース）

■ 研究集会名
教育科学討論会 第一回「筋ジストロフィーについて考える」
■ 主催者代表・主催組織（氏名、コース）
鈴木 理仁（グローバル共生教育論コース）
■ 研究集会の概要（目的、実施計画、成果、今後の課題など）
<p>本会は指定難病として知られる「筋ジストロフィー」に関して学び合い、思考し合うことを目的として開催された。</p> <p>本会ではまず、本研究科に在籍し、「筋ジストロフィー」について研究活動を行っている新津雪乃氏（教育心理学 D1）を講師として招聘し、現在の筋ジストロフィーと教育機関に関する動向についての研究報告をいただいた。その後、本研究科の社会人院生であり、特別支援校で「筋ジストロフィー」生徒の大学入学支援に取り組み、先駆的事例を為した大友浩氏（グローバル共生教育論 D2）を交え、司会（主催者：鈴木理仁）を含めた3名で事例をもとに討論を行った。最後に、オンラインでの参加者を含め、質疑応答を行った。</p> <p>〈開催日時/場所〉</p> <p>日時：2023年5月16日 16時～19時</p> <p>場所：文系総合講義棟 11階大会議室（オンライン併用）</p> <p>また、「筋ジストロフィー」については、病理としての医学的知識に限らず、広く障害学、社会福祉、高等教育論などに関わる問題でもある。本会では、義務教育課程における「筋ジストロフィー」当事者の包摂の芳しくない現状の把握と、受け入れが難しいとされてきた当事者の高等教育進学の前駆的事例の検討を通し、当事者の学習意欲をどのように考えるべきか、学びと願う個人を高等教育機関が受け入れるということが如何なる意味を持つのか、などといった点について議論された。また、以上の討議は当事者の学習にのみ還元されるものではない。学習の自己責任化など、新自由主義的学習観が蔓延る昨今において、本会は「学ぶ」ことの現代的意義について、示唆に富む内容であった。</p> <p>今後の課題としては、当事者性のより深い理解と、参加者の募集形式があろう。まず、本会では日程の都合もあり、「筋ジストロフィー」当事者を招待することが叶わなかった。</p>

送迎の問題もあり、次回に向けた省察の必要がある。当事者の内的世界に着目することで、より精緻な問題の理解が可能になろう。次に、研究科外・学外に向けた参加の呼びかけが叶わなかった。アウトリーチのためにも、次回に活かしたい。